

RCC FORUM

No. 32



吳 在 植 氏

Oh, Jae-Shik

国立ソウル大学（学士）、エール大学（神学修士）、韓国学生キリスト教連盟総幹事、アジアキリスト教協議会・都市農村伝道部会幹事、韓国キリスト教協議会訓練センター長、韓国キリスト教協議会平和統一委員会委員長、韓国キリスト教協議会第3部会代表幹事、韓国ワールドビジョン代表幹事、ソウル聖公会大学 NGO 学客員教授（2003年から現職）、アジアインスティテュート代表幹事（2006年から現職）、現職・韓国アジア教育院院長

東北アジアの平和と 日本の役割 — 韓国キリスト者からの提言 —

吳 在 植 氏

（韓国アジア教育院 院長）

● 日時：2006年10月13日（金）

11:10～12:40

● 会場：関西学院会館ベーツチャペル

—どなたでも聴講できます—

講演内容

新世紀の開幕にあたり、東北アジアの主要6カ国は地域の平和構築のため話し合いの座についた。特に協議は、和解と協力をめざして世界共同体に北朝鮮を招聘することで意見が一致し、その結果北朝鮮は2003年8月から開始した6カ国協議の焦点となった。

これに際して、関係6カ国の市民団体と学术界は次の点で重要な役割をもつ。（1）関係各国政府に、平和を至上命題として、特定国の手続き論に陥ることのないよう要請すること。（2）関係6カ国に市民団体を組織して、共同で「国益」の枠を超えるよう努めること。

以上の視点でこのテーマについて考えたい。